

## 令和5年度第2回厚木市環境審議会会議録

〔会議主管課〕 環境農政部環境政策課

〔日 時〕 令和5年11月17日（金）14時から16時まで

〔場 所〕 あつぎ市民交流プラザ（amyuあつぎ）

〔出席者〕 厚木市環境審議会委員 13人

環境農政部長、循環型社会推進担当部長、環境政策課長、  
生活環境課長、農業政策課長、農林・鳥獣対策担当課長、  
都市農業支援担当課長、環境政策課環境政策係長、ほか事務局3人

### 1 開 会

### 2 挨拶

### 3 案 件

(1) 生物多様性あつぎ戦略の改定について（資料1-1、1-2、1-3）

### 4 報告事項

(1) 環境基本計画令和4年度取組結果について（資料2-1、2-2）

(2) 地球温暖化対策実行計画（区域施策編）令和4年度取組結果について  
(資料3)

(3) 地球温暖化対策実行計画（事務事業編）令和4年度取組結果について  
(資料4)

(4) 生物多様性あつぎ戦略令和4年度取組結果について（資料5）

### 5 そ の 他

### 6 閉 会

案件は次のとおり

海老澤会長	<p>次第に従いまして、案件に入らせていただきます。</p> <p>案件（１）「生物多様性あつぎ戦略の改定について」事務局から御説明をお願いします。</p>
佐藤副主幹	<p>《資料に基づき、佐藤副主幹 説明》</p>
海老澤会長	<p>ただいま事務局から説明がありましたが、何か御意見等ございますでしょうか。</p>
青砥委員	<p>別紙の指標について、施策１「山地の保全・再生」の進捗管理指標に「森林整備面積」と記載されていますが、ここで指しているのは人工林の面積だと思います。厚木には丹沢地域など、県が管理する自然林もあると思いますが、指標として、自然林は含まれないということでしょうか。</p>
山下課長	<p>指標については市の施策として設けさせていただいており、市と県では、その取組内容が少し違います。厚木市で行う整備につきましては、里山寄りにある人工林に対して整備を進めることが中心であることに對し、県では奥山の整備が中心となっています。</p>
青砥委員	<p>市域全体が対象の計画ですが、市の施策を行う場所だけが対象で良いのでしょうか。自然林も含めた方が生物多様性の指標としては良いのではないのでしょうか。</p>
小宮係長	<p>今の御意見は指標としてではなく、計画本体の記述で入れることができないか検討していきます。</p>
坂本委員	<p>施策３「水辺の保全・再生」に関しまして、ＢＯＤが指標となっていますが、現在は、河川が整備され水もきれいになっていますので、それを指標にしても進捗がないと思います。市でも自然型の護岸整備を行っていて、生物多様性の配慮に繋がっ</p>

	<p>ていると考えられますし、この施策3の中には、小学生の水辺の環境学習などもありますので、その実施回数を指標としても良いのではないかと思います。</p>
小宮係長	<p>ありがとうございます。いただいた御意見を参考に再度検討します。</p>
海老澤会長	<p>施策4「農地の保全・活用」で、耕作放棄地と記載されていますが、本編では遊休農地と記載されています。この言葉の意味は違うのでしょうか。</p>
三橋課長	<p>耕作放棄地は農林業センサスの言葉として使われており、遊休農地は法律上の用語です。言葉の意味はほとんど同じです。</p>
海老澤会長	<p>現状値につきまして、現在7.43haは再生利用面積とされていて、更に8ha加えて2030年に15.43haを目指すという意味でしょうか。</p>
三橋課長	<p>今後、毎年度1haずつ増やして、遊休農地の解消を目標としています。</p>
海老澤会長	<p>分かりました。ありがとうございます。 施策8の市民の認知度について、目標が100%となっておりますが、達成は可能なのでしょうか。</p>
小宮係長	<p>今回は、市民の認知度の向上を目標としているところでもあり、2030年の目標を「誰もが生物多様性を理解し行動することで、自然が回復しはじめている」と定めております。これは「知っている」だけではなく、「理解し行動する」というところまで求めているので、認知度100%を目指すことは必要であると考えております。</p>

青砥委員	<p>施策6の指標種の状況把握については、こどもの森公園だけが対象で良いのでしょうか。こどもの森公園の1か所のみを対象とした場合、仮に何かの事情で調査が出来なくなるとデータの連続性がなくなってしまうと思います。また、今回、戦略の中で紹介されたスポットは5か所あり、それぞれ違った特色の自然がありますので、複数箇所を対象とした方が良いと思います。</p>
佐藤副主幹	<p>まだ予算要求の段階ではありますが、来年度にアプリを用いた市民参加型の生き物調査を実施したいと考えており、市域全体の概ねの種の把握はそちらで賄うことを考えています。</p> <p>こどもの森公園では、コアエリアとして更に詳しく調査を進めるところです。</p> <p>また、県や大学との連携を諮りながらフォローしていきたいと考えております。</p>
小宮係長	<p>モニタリング調査は、専門機関に委託することになります。見積を取ったところ指標種の調査は、1か所当たり100万円程度の費用がかかってしまいます。継続性を考慮すると、該当箇所を複数にすることは財政面で難しいと考えております。</p>
海老澤会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>答申案については、御意見ありますでしょうか。</p>
海老澤会長	<p>1（1）生物多様性の持続可能な「利用」という表現は、人間の傲慢さが感じられるのですが、適切な言葉なのでしょうか。</p> <p>「生物多様性が持続的に維持される」や「共生される」というような、育むことにつながる表現にした方が良いと思います。</p>
小宮係長	<p>ここにつきましては、生態系サービスの観点から人間が利用するという一面もございますので、このように記載させていただきましたが、恩恵を受けるだけではなく保全の意味も込めた文言も検討していきます。</p>

海老澤会長	<p>ありがとうございます。ほかにありますでしょうか。</p> <p>無いようですので、次の報告事項に移ります。</p> <p>続きまして、報告事項（１）「環境基本計画令和４年度取組結果について」事務局から御説明をお願いします。</p>
山崎副主幹	《資料に基づき、山崎副主幹 説明》
海老澤会長	ただいま事務局から説明がありましたが、何か御意見等ございますでしょうか。
清瀬委員	2030年までに生物多様性の認知度100%を目指すということでしたが、資料2-1の「生物多様性に関する調査、普及啓発」では評価が下がっております。さがみ自然フォーラムの来場者数の目標値が1200～1300人で2030年までに100%に達するのでしょうか。
山崎副主幹	<p>こちらの数値は、環境基本計画の策定時にも議論になりました。当時は、コロナ禍で今後どこまで回復できるか分からない状況であったため、コロナ前の数値を踏まえて設定しました。今年度は、環境フェアやごみに対する環境学習講座に多くの方が参加されましたので、今後もイベントへの参加者は増えてくると見込んでおります。</p> <p>また、目標100%と来場者とは直接の関連性はありませんが、100%を目指すには、さがみ自然フォーラムだけではなくHPやSNSなどでも、更に認知度を高められる活動をしていかなければならないと考えております。</p>
菅委員	令和３年度のさがみ自然フォーラムが、VRで開催したことで閲覧数が多かったのであれば、今後もVRを併用しながら開催した方が認知度の向上や普及啓発には良いのではないのでしょうか。

佐藤副主幹	<p>令和３年度は、対面での開催が出来なかったためVRでの開催を実施しました。VRにつきましては、コロナ期間の応援価格ということで破格の値段でやっていただいた経緯があります。翌年度も併用を考えましたが、費用の桁が違ったので難しいと判断しました。令和４年度は、コロナ明けの対面開催ということもあり、どの程度の来場者があるのかを諮る機会であったと捉えております。</p> <p>フォーラムについてはVRに限らず、より多くの人に興味、関心を持ってもらえるようなイベントにしていきたいと考えております。</p>
窪田委員	<p>資料２-２の１３ページで「観光地やイベント等で分別を実施した」との記載がありますが、分別の推進以外に発生抑制はされていないのでしょうか。環境フェアではエコバックを配布していましたが、鮎まつりなどでは、リユース食器類の利用、活用を推進した方が良いと思います。また、１６ページの「学校給食センターから発生する紙類の資源化」とは、これまでは行われていなかったということでしょうか。</p>
小宮部長	<p>鮎まつりでは大型のコンテナで分別を実施し、減量につなかりました。発生抑制についてですが、イベントは地域経済の活性化も目的に含まれております。物を売るときには、当然ごみも発生しますので、バランスの取り方が今後の検討課題になります。大きなイベント等では、発生抑制が非常に重要な課題であるとは認識していますので、事業者の皆様と検討していきたいと考えております。</p>
山崎副主幹	<p>リユース食器やデポジット制度につきましては、ジャズナイトのイベントでの採用を提案したことがあります。しかし、丁度コロナ禍で飲食の提供がなく、実施できなかったという経緯があります。また、先日のオクトーバーフェストではデポジット制度がありましたので、市内での事例として今後の実施を検討していきたいと思っています。給食センターにつきましてはこれまでもリサイクルを実施しており、今後も実施する予定ということで記載されています。</p>

海老澤会長	<p>ほかに御意見ございますでしょうか。</p> <p>続きまして、(2)「地球温暖化対策実行計画（区域施策編）令和4年度取組結果について」事務局から説明をお願いします。</p>
山崎副主幹	<p>《資料に基づき、山崎副主幹 説明》</p>
窪田委員	<p>市内の公共施設を再エネのコスモ電気に切り替えたと思いますが、今回の資料ではその関係については反映されていないのでしょうか。</p>
山崎副主幹	<p>それは、次に説明します「事務事業編」の中で記載されていますが、実際には昨年12月からなので、今回の結果には大きく反映されていません。また、区域施策編は市域全体の話で、公共施設の電力使用はそこの中のごく一部でしかないので、効果は見ておりません。</p>
海老澤会長	<p>ほかに御意見ございますでしょうか。</p> <p>続きまして、(3)「地球温暖化対策実行計画（事務事業編）令和4年度取組結果について」事務局から説明をお願いします。</p>
山崎副主幹	<p>《資料に基づき、山崎副主幹 説明》</p>
坂本委員	<p>4「ライフスタイルの変革」の適応策の指標として光化学スモッグは適切ではないと思いますが、いかがでしょうか。</p>
山崎副主幹	<p>今回の取組結果は、改定前のもので示されておりますが、昨年度の計画改定において、光化学スモッグについては除かれています。</p>
海老澤会長	<p>実施されたのを知りませんでした。ノーマイカーデーは良い取組だと思います。今年度も継続し、今後も拡大していくも</p>

	<p>のなのでしょうか。</p> <p>昨年度に社会実験として1日だけ実施しましたが、本来は呼びかけた上での習慣化が大事だと思っております。実施したことで取組に参加した企業様などには、意識付けされたのではないかと思います。今後、結果を見て所管課である都市計画課でどのように考えているかを確認していきます。</p>
山崎副主幹	
海老澤会長	<p>参加企業へのインセンティブなどはあるのでしょうか。</p>
山崎副主幹	<p>賛同していただいたということで、市のホームページでは公開しておりますが、インセンティブとしては特にありません。</p>
海老澤会長	<p>ほかに御意見ございますでしょうか。</p> <p>続きまして、(4)「生物多様性あつぎ戦略令和4年度取組結果について」事務局から御説明をお願いします。</p>
佐藤副主幹	<p>《資料に基づき、佐藤副主幹 説明》</p>
船本委員	<p>生物多様性戦略の改定に当たりまして、表紙はどのようなになるのでしょうか。</p>
佐藤副主幹	<p>現在、検討中ですが、市民の方に親しみが湧くような表紙にしていきたいと思えます。</p>
海老澤会長	<p>現戦略には指標が無いため、取組内容を掲載しているとのことでしたが、次期戦略では進捗管理指標を数値として表していくということでしょうか。</p>
佐藤副主幹	<p>なるべく数値として記載することを検討しておりますが、表</p>



	<p>しにくい部分もございますので工夫していきたいと思います。</p>
神崎委員	<p>資料3の5ページ目ですが、保育所の給食に厚木産、地産地消という話がありますが、小中学校の給食でも厚木産の農産物のほかに米もありますので、追記した方が良いでしょう。</p>
小宮係長	<p>承知しました。ありがとうございます。</p>
海老澤会長	<p>ほかになれば、事務局にお返しします。</p>
小宮係長	<p>次第に戻させていただきます。次第の5「その他」についてでございますが、委員の皆様から本日の案件以外のところで、御意見や御質問、御連絡事項等がありましたら、お願いします。よろしいでしょうか。</p> <p>以上をもちまして、第2回厚木市環境審議会を終了します。</p>

